



第七回 織物  
多賀郁子さん（笠岡）



フレミッシュ織の作品

腕に確かな技術を持つ人がいる。その腕で作られるものが人々を魅了する。このコーナーでは、そんなキラリと光る技を持つ「匠」たちを紹介します。

織機に向かい思い描いたイメージの世界に一步踏み込むと、無我の境地に陥るのか時間の流れさえも止まり、その手で自在に操られた縦糸と横糸は、やがて鮮やかでかつ繊細な作品にその姿を変えていきます。

高校時代に初めて出会い、強く興味を惹かれた織物の世界。日本では数少ないスウェーデン生まれの「フレミッシュ織」という技法を習得された多賀さんは、独特の光沢をもち深い色調の作品作りに取り組みられています。

「十色以上の極細の糸を、ピンで押し込めながら作り上げていく手法はとても根気が必要で、作品づくりは一日にわずかしか進みません。」と言われながらも、完成した作品のほとんどは、親しい友人にプレゼントトされるそうです。そして、「作品を差し上げる代わりに、私にとつては一番貴重な、新しいアイデアをいただけるんですよ。」と嬉しそうに語ってくださいました。

旅先などで自然に触れるたびに、作品のイメージが湧いてくるように、一次は笠岡湾干拓地に広がる、菜の花に挑戦してみたいんです。そして織りだけでなく、染めの工程にも関心をもっていますから、工房も広げたいんですよ。」と話される顔から、作品づくりへの熱い想いが伝わってきました。



竹喬美術館の光彩 41

雨雲

小野竹喬 作  
昭和29(1954)年  
37.6×27.0cm

「：題材を得たときに、手っ取り早くすぐに制作する人がありますけれども、私の場合はスローモーションですから、温める時間が必要なんです。温めている間に、どういうふうなそれを表現したらいいかということですが、わりに具体的に素材との関連をもちながら心のなかで養われていくようですね。」

このスケッチをもとに描かれた作品（一本の木）は、昭和47年の第4回改組日展に出品されている。スケッチの時から20年間近く竹喬の心にとどまっていた木は、暗く垂れ込める雨雲に負けない力強さで、まっすぐ天へと伸びている。

展覧会と行事のご案内

そうはく  
伊藤草白展  
会期中～6月4日(日)  
竹喬の影響を非常に強く受けた画家の初の回顧展です。

ギャラリートーク  
5月6日(土)・20日(土)  
13:30～14:30  
展示室で作品を解説します。  
入館料のみ必要  
(65歳以上は無料)

〒714-0087  
笠岡市六番町1-17  
☎63-3967  
ホームページ  
<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html>

今月の表紙

おいしくできるとかな。慣れない手つきで巻き寿司づくりに挑戦しているのは、「子どもなんでもチャレンジ・新山」に参加した小学生のみんなです。

栄養委員など地域の達人が指導にあたり、子どもと一緒にお花見弁当を作りしました。シーチキンなどの具を用意した巻き寿司づくりでは、両手をお米だらけにし悪戦苦闘しましたが、お好みの具を入れたおにぎりは、丸や三角に上手に丸めていました。

子どもたちの健やかな成長は、市民みんなの願いです。

係から

四月の人事異動で、企画政策課へ異動し広報を担当することになりました。今までの職場とは全く違い、慣れないカメラを持って取材をしています。先日白石島のオリエンテリング大会で体験コースを歩き、気持ちよい汗を流してきました。

これから市内のいろいろな催しや地域活動取材に行きますので、見かけたら気軽に声を掛けてください。

(土)



中野素嗣 土屋武之

発行日／平成18年5月1日  
発行／笠岡市役所  
編集／企画政策課  
〒714-8601 笠岡市中央町1-1  
☎69-2110

印刷／(株)国輝堂 ☎67-5111

笠岡市ホームページ：<http://www.city.kasaoka.okayama.jp>  
メールアドレス：[kouhou@city.kasaoka.okayama.jp](mailto:kouhou@city.kasaoka.okayama.jp)



※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい植物性大豆油インキで印刷しています。

100 古紙配合率100%の再生紙を使用しています